

令和5年度 第2回 佐倉市立美術館運営協議会

議事録

日 時：令和6年3月28日（木） 14：00～16：00

場 所：佐倉市立美術館 4階ホール

出席者：以下のとおり

（委 員 8名）

安達委員、大久保委員、葛西委員、齊藤委員（副会長）、田中委員、豊田委員、中松委員、樋田委員（会長）

（美術館職員 5名）

柴田館長、本橋副主幹（学芸員）、木邨主査（学芸員）、西川主任主事（学芸員）、永山主査（学芸員）

会議次第

1. 開 会

2. あいさつ

3. 報告事項

（1）令和5年度事業報告について （公開）

（2）令和6年度事業計画等について （公開）

（3）組織改編について （公開）

（4）その他 （公開）

4. 協議事項

（1）作品の購入について （非公開）

（2）作品の受け入れについて （非公開）

5. 閉 会

【1. 開会】

【2. あいさつ】

<館長よりあいさつ>

【3. 報告事項】

(1) 令和5年度事業報告について（資料4～5頁）

<事務局より説明>

(会長)

令和5年度事業について報告していただきましたが、何か意見はございますか？

(委員)

映画の撮影が入ったとのことですが、どんな映画ですか。

(美術館)

制作発表前で詳細は申し上げられませんが、画家を主人公にしたものです。吹き抜けの作品なども写していたので、見れば当館だとわかる場面があると思います。

(委員)

撮影の使用料は条例で制定されているのですか。

(美術館)

市のシティプロモーションの中でフィルムコミッション事業というのがあり、施設運営費から割り出した時間単位の料金が条例で設定されています。

(委員)

人件費は入っていますか。金額が安いように感じました。

(美術館)

3階展示室の貸し出し1日分の使用料とそれ以外に使う部分は撮影料としていただきましたが、人件費は入っていません。先方からも安いというお話は聞きました。

(委員)

職員が立ち会うと人件費がかかり、時間外勤務が発生することもあります。撮影会社は費用をかけても撮りたい場合もあるので、金額をもう少し検討してもよいのではないのでしょうか。

(委員)

学校と連携した出前授業は、どんな授業をしているのですか。

(美術館)

以前から鑑賞プログラムのボランティアを養成してきましたが、彼女たちと一緒に市内の小中学校に出向いて、収蔵作品のカードやポスターを使って対話型鑑賞を軸とした授業をおこなっています。

(委員)

観覧者が1万人を超えたという junaida 展について2つうかがいます。お客様の構成はどんな方々でしたか。市内の方が多かったのでしょうか。また特別な広報をされましたか。

（美術館）

アンケートでは80%が女性で、年齢は20代から60代。普段より20代の若い方が目立ちました。市内の方が22%で8割は市外の方です。その内訳は千葉県内が47%、都内が14%、関東圏が12%でした。広報はインターネットからが36%のほか、京成電車の車内吊りと駅貼りポスター、知人から話を聞いたという方も多くいました。

（委員）

和田的展は入場者だけみると少なかったようですが、子弟対談はにぎわったとお聞きしました。どうでしたか。

（美術館）

佐倉に窯を持つ方が先生ですので、対談を企画しました。展示室でギャラリートークの予定でしたが、100人くらい集まったので、急遽ホールでおこない、盛況でした。また元サッカー日本代表の中田英寿選手が、引退後日本文化に関するプロジェクトをおこなう中で和田さんを取りあげていまして、そのときにコラボレーションしたデザイナーの佐藤卓さんと3人のトークショーもおこないました。抽選になるほどの申し込みがあり、話題になりました。地元の陶芸の仲間の方々もとても刺激を受けたと聞いています。

（委員）

地元の文化に貢献するという意味で、価値ある展覧会だったのではないかと思います。報告の中で、ポスターが少し先鋭的すぎたという反省がありましたが、新しいものを生み出そうとするのも、よい体験だったのではないかと思います。

（2）令和6年度事業計画等について（資料6～7頁）

＜事務局より説明＞

（会長）

令和6年度事業の予定について、何かご意見はございますか？ 展覧会の観覧料を高校生以下無料にするということですが、国の施設はどうですか。

（委員）

18歳以下無料にしたのですが、働いている人はどうするかという議論がありました。導入後、高校の団体は確かに増えましたが、入館者数が圧倒的に増えたというほどではありませんでした。

（会長）

私立の館ではいかがですか。

（委員）

高校生はいただいています。小中学生は市が優待券を出してくれて無料です。

（会長）

県のほうはいかがですか。

（委員）

中学生以下無料で、高校・大学生は同じ金額を取っております。ただ高校生を無料にしようという議論はしています。

（会長）

高校の授業料も無償化に向かっていますし、美術館も無料にという意見もでてくるかもしれません。展覧会の企画内容についてはいかがですか。

（委員）

入場者の目標設定については、市から要求があるのですか。

（美術館）

予算要求時に観覧料の歳入予算として設定をしています。

（委員）

新聞社と共催する場合などは、過大に見積もらないとやる意味がないと思われてしまうことがありました。

（委員）

東京都では、オリンピックの年にインバウンド需要をかなり多く見込まれてしまいましたが。結局コロナで消えてしまいました。

（委員）

突き詰めると入場者見積というのは、展覧会の評価を入場者数でしかみていないという本質的な問題が隠れています。展覧会についてどういう目標を立てるのがいいのかというところです。

（委員）

展覧会の種類によってメリハリをつけていくことが大事なのかもしれません。新聞社やテレビ局と共催して、行政の求める多くの入場者を見込む企画と、専門性の高い研究による自主企画とを使い分けていく。

（会長）

開催趣旨などもう少し、400字くらいは書いてもらえると、ここでカタログテキストにつながるような議論ができると思います。

（３）組織改編について （資料８～９頁）

<事務局より説明>

（会長）

これについて何かありましたらご発言ください。

（委員）

千葉県立美術館は、3年前に教育委員会から知事部局に移り、より広い意味で文化活動の拠点となりました。組織力は格段に上がったと思います。要望をペーパーにまとめて根気よく継続的に伝えていけば、声が届きやすくなると思います。

(会長)

どうして届きやすくなるんですか。

(委員)

例えば東京に本社のある会社の関西支局から本社に移ったようなものです。自分が所属している部の上司が直接知事に意見を言える立場にある。逆に上からの要求もダイレクトになります。それを返すときにもプラスしてこちらの要望を伝えられる、コミュニケーションが取れるのです。

(会長)

東京都は、すべての美術館博物館が一つの財団の一部という形で、館から直接知事宛の要望などありえませんでした。

(委員)

そうすると市長の意向が大きい。市長は美術には興味があるのですか。

(美術館)

美術館にはよく来てくださって、熱心にご覧になり、自分なりの見方をもっていらっしやいます。

(委員)

教育委員会では美術館と音楽ホールを学校教育に生かしていく話し合いや発信をおこなってきました。市長部局に移るというので心配していましたが、みなさんのお話を聞いていると、今までは教育委員会という狭い範囲だったのかもしれないと思いました。今後もっと広くアピールできれば佐倉市の魅力につながっていく。この二つの施設を市全体で大事にしていこうとしている。期待されているのですね。

(委員)

市長もそうですが、副市長というポジションも重要かもしれません。

(委員)

美術館としてはどうにもならない組織の問題なのかもしれませんが、結局は学芸職員が佐倉のためにやらないといけないことを言葉にして市長でも副市長でも説得できるような論理をつくることを目指すとよいと思います。

(委員)

博物館法も改正されて、文化観光やデジタル化などが言われていますし、バランスが必要という意見もありましたが、美術館本来の使命として、日本の近代・現代美術史を編集していくということがあります。それこそが美術館の評価やステータスにつながっていくということを言っていかななくてはいけない。

(美術館)

いくらこれが必要だと言われてもそれだけではなかなか納得してもらえない。やっぱりわかりやすい入場者数でこれだけ入っていますという説明が必要です。

(委員)

デジタル化について進めていることはありますか。

(美術館)

以前から収蔵作品のデジタルアーカイブはありましたが、新しく図書館を含む夢咲くら館が開館するにあたり、市全体のシステムが見直され、図書館資料、文化財資料、美術館資料がすべて一つの入口から横断的に検索できるようになりました。

(委員)

デジタルアーカイブということですが、毎年活動のアーカイブも必要です。研究紀要、年報を毎年きちんと出して、PDFで誰でも読めるようにwebで公開することで、市長や文化課長などの理解にもつながっていきます。

(美術館)

紀要や年報は発行できていないのが現状です。ホームページ上で開館からすべての展覧会の概要は掲載していて、過去に発行した図録は検索することができます。

(委員)

美術館にこういう人がいてこんなことを考えているという学芸員の生の声が伝えられると、市民にとっては身近に感じられます。作品解説の横に一言でもよいし、デジタルも活用できるのではないのでしょうか。

(会長)

他にはよろしいのでしょうか。全体についてですが、令和6年度事業計画はこれからのことですので、報告ではなく協議事項にしたほうがよいかもしれません。

(以下、協議事項)